



聖ニコラオス

(ミラ・リキアの大主教奇蹟者聖ニコライ)

Υπερασπιστής της Ορθοδοξίας, Θαυματουργός, Άγιος
Ιεράρχης, Αρχιεπίσκοπος Μύρων

270年3月15日リキアのパトラ生まれ

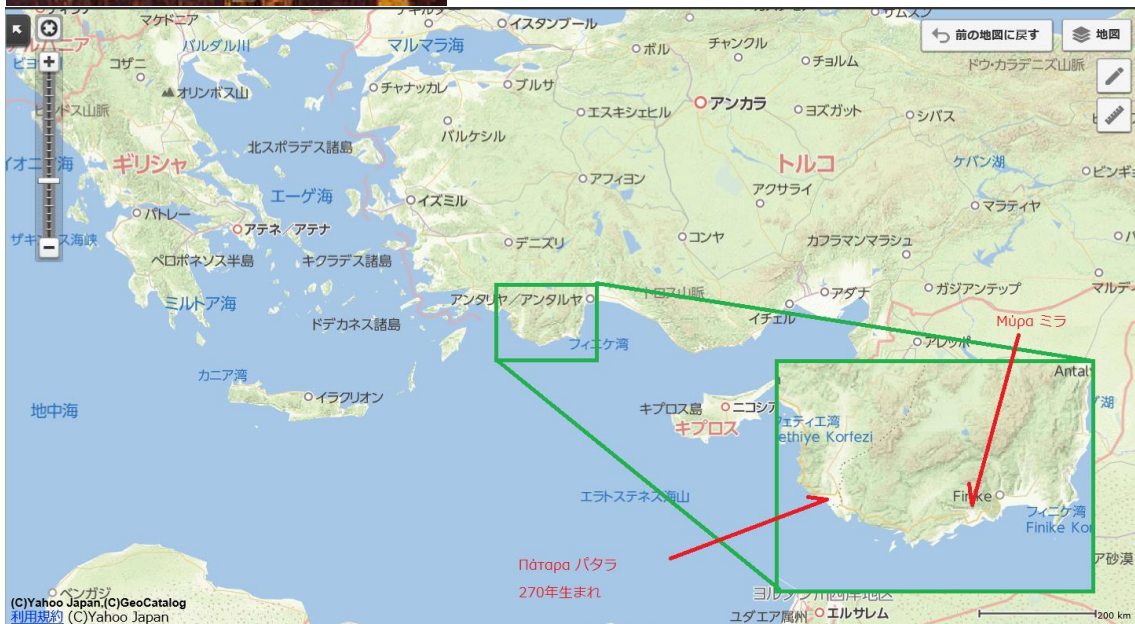
343年12月6日リキアのミラで死去。

(ただしユリウス暦での12月6日はグレゴリウス暦
の12月19日になります。)

司祭の時代に、身売りをしようとしていた娘の家に金
貨を投入して救った。

巡礼中、船で暴風を沈め、船から落ちて死んだ水夫を
よみがえらせた。

ミラの大主教となった。



ミラは11世紀後半セルジュークトルコの領土となり、その混乱のさなかニコラオスの不朽
体は南イタリアのバーリに運び去られた。

なおギリシャ人はクリスマスに大主教ニコライが来るとは考えておらず、正月に聖大ヴァ
シリオス(ワシリイ、バシレイオス)が家々を訪問すると考えている。

クリスマス

ローマ帝国の国教になる以前 1 月 6 日に主の洗礼と降誕を祝う祭りがあった。おそらく 1 月 6 日は主の洗礼として、割とはっきりわかっていた日であったと考えられる。現在もアルメニア教会はこの日にクリスマスを行っている。これはキリスト教がスタートした日としての意味合いがあった。

ローマ帝国の国教となり教義が整備されるにつれ、洗礼祭がキリスト教のスタートであると考えられることはキリストがそもそも神であり、人と神の性を併せ持つという教義にそぐわないと考えられた。

そこで、年末 12 月 25 日にキリストの降誕祭を行い、洗礼祭までの一定の期間を年末年始の特別期間とすることになった。

洗礼祭は正教圏では、キリストが洗礼を受け、父の「私の至愛の子である」という声がし、聖霊が鳩のように降ったということで、至聖三者(三位一体)の神が現れた日ということで、「神現祭」 $\theta\epsilon\omicron\varphi\acute{\alpha}\nu\epsilon\iota\alpha$ と呼ばれている。なおこの日はカトリックではなぜか三博士の礼拝の日と言う位置づけに代わり、公現祭 $\epsilon\pi\iota\varphi\acute{\alpha}\nu\epsilon\iota\alpha$ と呼ばれている。シェークスピアの Twelfth Night(十二夜)はクリスマスから公現祭までの期間を表している。